

西要寺だより

第108号 令和4年8月29日

●孟蘭盆会法要をお勤めさせていただきました

8月13日・14日・15日の3日間、午前11時より『仏説阿弥陀経』のお勤めをし、その後、住職より（14日は前住職・住職の長女からも）お話をし、12時少し前に終了、というスケジュールで孟蘭盆会法要の勤めをしました。



昨年、一昨年には、兵庫県内に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されていまして、門徒の皆様にはお焼香のみしていただくというかたちで勤めをしましたが、今年はほぼ従来通りの法要をしました。参詣者は3日間ともに40人前後でした。7月半ばころよりコロナの感染者が増えてきましたので、参詣者が分散されることを望んでいましたが、門徒の皆様のご協力のおかげで、ほぼ3日間均等にお参りしていただき、ほっとしております。

14日には勤行のあと、住職の長女がお話させていただきました（下写真）。長女は、保育士として保育園に勤めていますが、14日は日曜日ということで前住職も含めて3人で法要のお勤めをしました。



長女は大学の入学の前に得度して僧侶となり、大学生の頃より門徒さん宅へ月参りに伺い、門徒の皆様のお育てをいただいております。

・・・お仏壇のお話・・・

前回「西要寺だより」で、阿弥陀さまが立ってくださっている意味の話をしました。つまり、私たちのことが心配で座ってられないという慈悲の心より、阿弥陀如来は立っていて下さっているのです。今回は阿弥陀さまの左右の脇軸の話をしていきます。

右の写真のように、浄土真宗本願寺派（大谷派も）のお仏壇は、向かって右には「帰命尽十方無碍光如来（きみょうじんじっぽうむげこうによらい）」、左には「南無不可思議光如来（なもふかしぎこうによらい）」、あるいは、向かって右に親鸞聖人、左が蓮如上人です。



親鸞聖人は浄土真宗を開いた人ということになっていますが、実際には浄土真宗を開く意思はありませんでした。しかしながら、亡くなられた後に浄土真宗という宗が確立し、親鸞聖人を開祖としています。蓮如上人は親鸞聖人から数えて8代目の方で、本願寺の教団を今あるように大きくされた方ということで、中興の祖と称されています。

ここまではわかりやすいと思いますが、もう一つの方の「帰命尽十方無碍光如来」「南無不可思議光如来」についてですが、結論を先に言いますと、どちらも阿弥陀如来のことです。ちなみにですが、お仏壇の「帰命尽十方無碍光如来」の「碍」の字をよく見ていただくと、「碍」の字の石へんがありませんが、石へんの無い「碍」は「碍」の異体字（文字の意味と読みが同じ漢字）です。

まず、阿弥陀如来とは、声の仏さまと言われていています。手を合わせて「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏・・・」と言います。それは私たちが言っていることばではありますが、その声は「かならず救う、まかせよ」という阿弥陀如来の声なのです。

「南無阿弥陀仏」の「南無」という語は、インドの言葉でナマスという語の音写です。それは帰命、帰順、敬礼の意、つまり、まかせるという意味です。「帰命尽十方無碍光如来」の「帰命」と同じ意味です。

「十方」とは四方八方の八方に上下をあわせて十方、つまり「あらゆる方向」、「尽」は「ことごとく」、「無碍光（むげこう）」は「さま

なもみだんぶつ



たげられることのない光」、「光」は「阿弥陀如来のはたらき」を示しています。つまり、「帰命尽十方無碍光如来」とは、「ことごとくあらゆる方向より さまたげられることのない はたらきをもった 阿弥陀如来」、その阿弥陀如来は私たちに「まかせよ」と呼びかけてくださっている如来、という意味になります。



また「南無不可思議光如来」とは、「不可思議光」、「わたしたちが考えたり思ったりすることのできないほど 優れたはたらきをもった如来」、つまり、阿弥陀如来のことをであって、「南無」とは、「まかせよ」と呼びかけてくださっている如来という意味です。

2つの掛け軸はいずれも阿弥陀如来のこと、そのはたらきを字でもって示してくださっているのです。

月にウサギが描かれているお話

仏教を開かれましたお釈迦さまはインドの釈迦族の国王の息子として生まれられました。そして、29歳で出家され、6年間修行されて35歳でさとりを開かれました。その後、45年の間、仏教の教えを説いて回られて80歳で亡くなられます。

お釈迦さまが亡くなられてから400年ほど経った頃、お釈迦さまの神格化が始まります。29歳から35歳まで修行をされたお釈迦さまは、前世以前においても慈悲深い良い行いをされ続けていたから、この世でさとりを開くことができたのだ、という前世物語「ジャータカ」が誕生しました。

その前世物語の一つに次のようなお話があります。ある森にウサギ（お釈迦さまの前世の姿）が住んでいました。正しい生活をしてきたウサギを天界から見ていた帝釈天は、ウサギを試そうとバラモン（ヒンドゥー教の司祭者）に姿を変えて現れ、「何か食べ物を施してほしい」とウサギに言いました。いろいろ探したが食料を入手することができなかつたウサギはバラモンに火を起すように頼むと、自ら火に飛び込んだのでした。ウサギは我が



身を食事として差しだそうとしたのでした。

帝釈天は正体を明かしてウサギを助けた後、その徳を伝えるため、ウサギの姿を月に描いたといわれます。

●お知らせ

来年令和5年3月より、西本願寺において、親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要が勤まります。西要寺の属する阪神南組におきましては、法要の初日令和5年3月29日に団体参拝します。後日、参拝希望者の募集を行います。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】

9月22日（木）午後2時より

講師：西要寺住職

場所：西要寺本堂

◎お誘いあわせて、お参りください。

【報恩講法要】

10月21日（金）22日（土）両日とも午後2時より

講師：森田義見師（本願寺派布教使 山口県下松市 勝賢寺住職）

場所：西要寺本堂

◎お誘いあわせて、お参りください。

ホームページ
(saiyouji.com)



Instagram
(saiyouji.a)



YouTube
(ユーチューブ)



LINE
(ライン)



浄土真宗本願寺派

西 要 寺

〒661-0024
尼崎市三反田町1丁目7-27

電話 06-6429-8241
FAX 06-6429-8239